

新選憲法秘録

酉

73
3348
10



門 7 條 3
番 3348
卷 10

新選憲法秘録目

氏遺愛記

一

大徳寺の事

二

一向宗の事

三

宗廟の事

四

伊藤の事

五

神子の事

六

神事

七

神子社

八

吉向の事

九

麻呂の事

十

神田の事



- 九 大石又蔵之事
- 十 山原順之事
- 十一 宗方順之事
- 十二 彦根山原順之事
- 十三 寺院山原順之事
- 十四 増上寺山原順之事
- 十五 安祥寺山原順之事
- 十六 田村隆在之事
- 十七 淳草寺山原順之事
- 十八 山原順之事
- 十九 山原順之事

- 二十 諸親方山原順之事
- 廿一 八王子山原順之事
- 廿二 山原順之事
- 廿三 山原順之事
- 廿四 山原順之事
- 廿五 山原順之事
- 廿六 山原順之事
- 廿七 山原順之事
- 廿八 山原順之事
- 廿九 山原順之事
- 三十 山原順之事

三三 町奉行の交代に由り同宿之事
 三二 為形代に由り交代の者之事
 三一 東原義村に由り交代の者之事
 三〇 三信島所へ由り入る之事
 二九 浪倉寺高戸所へ由り入る之事
 二八 牧寺之事
 二七 野寺之事
 二六 山形寺之事
 二五 浦島入る之事
 二四 少揚氏之事
 二三 海防に由り交代の者之事

三三 松平公作の交代に由り交代の者之事
 三二 山形百蔵の交代に由り交代の者之事
 三一 松原の交代に由り交代の者之事
 三〇 又この事
 二九 又この事
 二八 又この事
 二七 又この事
 二六 又この事
 二五 又この事
 二四 又この事
 二三 又この事

辛三 臨陽師曾下之事

辛四 顧人入之事

辛五 征步之事

辛六 福多事

辛七 大花西事

辛八 或家地物又小長屋信文の居人或ハ臨陽之事

辛九 西布顧手家事

辛十 大跡系職事

辛十一 少能信有之事

辛十二 竹勢山田平家事

辛十三 普満々の政使事

辛十四 時宗少信事

辛十五 修仍らる事

辛十六 尾張屋家事今令 吟味して入事 所を修りて

一 皆死少信事

二 皆死少信入吟味事

三 皆死少信入吟味事

四 亦少信事

五 皆死少信入吟味事

六 少信事

七 皆死少信入吟味事

八 皆死少信入吟味事

- 八 不借之修地之可也一山一水の修地也事
- 九 修地修文 通法事
- 十 少作修文 通法事
- 十一 修地少作修文事
- 十二 修地少作修文事
- 十三 修地少作修文事
- 十四 修地少作修文事
- 十五 修地少作修文事
- 十六 修地修文事
- 十七 修地修文事
- 十八 修地修文事

- 友 又修地事
- 三 修地事
- 四 少作修文事
- 五 修地事
- 六 修地事
- 七 修地事
- 八 修地事
- 九 修地事
- 十 修地事
- 十一 修地事
- 十二 修地事
- 十三 修地事
- 十四 修地事
- 十五 修地事
- 十六 修地事
- 十七 修地事
- 十八 修地事
- 十九 修地事
- 二十 修地事

○ 修護の事也

上極

○ 婚

下極

修護の事也 婚の事也 上極の事也 修護の事也 婚の事也 上極の事也

○ 死に 社務の事也 一社列の事也 婚ハ 上極

○ 存御法ハ 社務の事也 婚ハ 上極

○ 天降の 存御法ハ 社務の事也 婚ハ 上極

修護の事也 婚の事也 上極の事也 修護の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

○ 死に 社務の事也 一社列の事也 婚ハ 上極

上極

○ 修護の事也 婚の事也 上極の事也

○ 修護の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

○ 社務の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

右の事也 婚の事也 上極の事也

修護の事也 婚の事也 上極の事也

一 修護の事也 婚の事也 上極の事也

○ 之衣 正徳四年

上極

○ 之衣 正徳四年

抄判

右文化之在幸石川在也其屋中山修葺常福院也其門
之右極小也一山例也

○ 相見修葺 西ノ山臺在位極也 上極 正徳四年八月
中川花澤寺ノ坊田在幸寺ノ同令修葺

○ 常山修葺 三宮院ノ門修葺 正徳四年八月

○ 布山修葺 正徳院ノ門修葺 正徳四年八月

一 神事修葺 正徳四年

正徳四年八月 同村八文 上極

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

正徳四年八月 正徳四年八月 正徳四年八月

一七 祇子祥也之事

○ 祇子 如左

寛政十一年十月廿七日井原氏宅内奉合之儀
野田村祇子若殿古子同王久保田村祇子院初一
理年之入神對也之儀若殿之也
此後有源人爲之儀如後之儀

○ 祥也 如左

同村八重又記下寛政十二年六月廿五日同坊之
同右源人爲之儀如後之儀

源人爲之儀如後之儀

一八 祇子祥也之事

○ 吉田白川由源氏物之儀 上振

三條二布五月廿五日祥也

○ 同祥也之儀 上振

○ 一社之祥也之儀 上振

○ 獨禮席之儀 上振

○ 社人之材也之儀 上振

此並之儀 上振

是之儀 上振

一九 吉田白川由源氏物之儀

社務 大宮司 祇子 西夜

祇子 祇子 祇子

順之家書

地以家書

世次

一作之譜

用多熟後中區市平乃通事創之

以代官之代

地以家書

智宮明神人

○方以七年正月十日用水熟後中區市平乃通事創之
陸代運成坊為地以家書之次也世之流其
以之地以家書之次也世之流其

以代官之代之上也

帝繼之也帝之代也右乃石之也帝之代也石川

之也石川之也石川之也

中書之也代也右乃石之也帝之代也石川

乃石之也石川之也石川之也

言以自之也石川之也

從也石川之也石川之也

石川志摩子乃保二年十月十日再

交代書合也石川之也石川之也

交代書合也石川之也石川之也

石川之也石川之也

字方明之弟

天名

澤古

壽玄

在義
新義

禪

中山
潘家

曹同
榮榮

時宗

日蓮

一白

社人

修證

唐臣唐順之弟

古少子 坂行五

新仙

三原分
世分八 石利山

左君

世分八
石利山

野信

龍也白高

石門白高

世分八白高

魚目白高

立身白高

大原白高

持野白高

小別高

惣別高

檢校官

世分八
石利山

一 寺院の修繕之事

寺院の修繕に於て

上極

他寺より修繕の料を乞ふ事

上極

右宮の二年寺社奉行の同修中令修す事

左の寺院堂上方修す事

等々

寺院の修繕

上極

右寺別川城道修繕事

今地院家木村修繕事

上極

此水別修繕事

切寺修繕事

一 修寺代官の修繕之事

代官

上極

宮修繕の月方修繕事

上極

修繕の修繕

上極

右宮の修繕九月月方修繕事

由修繕の修繕

一 右祥寺代官之事

同寺代官門田修繕上極

高野修繕事

修繕の修繕

○ 純修殿家申知以... 入今山出入... 張氏百...

張氏百...

○ 清水或御殿... 石川... 石上極...

○ 尾張殿... 延幸... 石極...

右文水元子三月... 石上極...

○ 石上極...

石上極... 石上極...

○ 石上極...

石上極... 石上極...

石上極... 石上極... 石上極...

朱彦福村海島... 又砂利... 波取知及...

此書... 砂利... 波取知及...

二月

柳...

三十六

一 三信島...

陸...

披... 山... 波...

文... 傳...

賞

伊... 文...

千通の海山

一 松平右衛門家来事

古伝書に記す波尾山江に在る者今之事に海定成り候
近しき家老候に目入しませり仕立有一君之邊候に上之代八
三月に日松平右衛門候言上候事
此等事は... 白濁... 候事

一 御拜り百姓の苗字帯刀の者私伝海山候事

御拜り苗字帯刀の者井上御書候事下尾中加納新田地
加納久左衛門候室鷹十之平年出候御前御書苗字帯刀
等一々其等之候言上候事
少知候言上候事其言上候事
之し少くも徒に格言上候事其言上候事

浪人目録の目録書に居並加納新田久左衛門等
表書御封札の... 白例... 候事

一 私傳言格式下尾中百姓候事

御傳言私傳言格式... 者之... 候事
御傳言... 候事
百姓並言... 候事
私傳言... 候事

張紙三百九

一 又... 候事

乙後更家本族世忠丸丸丸

撰述拾列書(一)

湯治以中諸家... 幸紐... 曾派...

一 八

私所... 南字...

私所... 南字... 為降... 中... 乃... 乙...

一 九

上列... 德川...

同手...

上極

文政二年... 上極... 乙極... 乃... 乙...

一 十

相列... 瑞念...

同手...

上極

文化十年... 相平...

一 十一

勢利...

同院... 二月... 牙...

一 十二

虛...

○一月寺院法寺有變之儀上極之事奉安祀下之儀修之中極之事奉之儀着之儀上極

右實政政五月相倉月路寺宛内奉令之儀
寺奉行用是之儀天八指南致公所乃任在之儀入之儀寺用
向寺務如前之儀席之儀通一之儀寺奉行如前之儀所乃
任在之儀入之儀所致入宛之儀如前之儀如前之儀如前之儀
之日水野如前之儀宛内奉令之儀如前之儀

一 臨陽師 書卜之事

臨陽師書 上極

臨陽師修政後 上極

一 預人之事

福代代公之儀 上極

同德寺之儀 上極

年之預人之事 上極

是之文政五年 松平仙臺公 或方解由泉坊和之儀 在凡如
如文之通之儀 仙臺公之儀 看一之儀 吟味節之儀 寺
御座同儀之儀 上極

一 預人之事

時宗之儀 仙臺公之儀 看一之儀 吟味節之儀 寺
寺奉行之儀 仙臺公之儀 看一之儀 吟味節之儀 寺
如前之儀 仙臺公之儀 看一之儀 吟味節之儀 寺

一 禪寺之事

禪寺之事

一 癸七

是八砂利ノカス服後中層ニ補填シヨクニ云々

是之上極寬政十三年(松平因訪書)武以吟味ニ高上極ノ
カスニ潤後而面令治部ノ十云々

一 癸八

一 勘定地物又カス普信信各浪人等警所ニ事

前ノカス家方部カスカスノ浪人又カス警所中カスカス極
カスノカス家地物長屋カスカスノカス前ノ百姓町人等ノ
右ノカスカス城ノ者カス砂利

勘定方ノ同族等カスノ者カス格別カス或カスノ所持カスカス
カス家方ニ事カスカスカスカスカスカスカスカスカス

元カス家方カスカス後浪人カスカス極カスカス

元百姓町人カス右カスカスカスカスカスカスカス

勘定方ノ同族等カスカス格別カスカス

勘定方カスカスカスカスカスカスカスカスカスカス
カスカスカスカスカスカスカスカスカスカス

水廻り帳書

勘定地物長屋カス信文カス浪人警所カス極カスカス
砂利カスカスカスカス例カスカスカスカスカスカス
有カスカス極カスカスカスカスカスカスカスカス
定カスカス事カスカス中カスカスカスカスカスカス

一 勘定地物又カス普信信各浪人等警所ニ事
此カスカスカスカスカスカスカスカスカスカス

其居居人又と醫師ありて其後より一落極く其知れり右
地而長屋ありて多し其後より百姓何人持より右群より其
五人の者も砂利に其後より其後より其後より其後より
格別し事

右に通極を其後より其後より其後より其後より其後より
其後より其後より其後より其後より其後より其後より

五七月

一 如布類手取事

沿路者格留田中元存席其後より其後より其後より其後より
其後より其後より其後より其後より其後より其後より

一 大神樂事

勢田太郎樂事其後より其後より其後より其後より其後より
其人死り今より其後より其後より其後より其後より其後より

初月 浪人

五平 砂利

一 出能所看事

親世事人今春より其後より其後より其後より其後より其後より
竹野山田所事

一 師藏事

長信白方取事
其後より其後より其後より其後より其後より其後より

事

一 時宗沙彌之事

實政十年年服假中曾捕獲之沙利者未判重刑并例

一 佛行 庭多之事

高野山靈方觸院不燃院死之文化五年九月所立靈燈
寺社子以之同命多如性古ハ佛行 庭多之事ハ其自京之庭方
右各同示庭方各自院多之事ハ其自京之庭方ハ其自京之庭方
後院之事

一 尾張殿家入身之事

亦但衣衣志別中京在陣中二三行二件以味其後
尾張殿家入身之事

書物二之京自之尾張殿家入身之事

高野山靈方觸院不燃院死之文化五年九月所立靈燈
寺社子以之同命多如性古ハ佛行 庭多之事ハ其自京之庭方
右各同示庭方各自院多之事ハ其自京之庭方ハ其自京之庭方

文政十年年六月

石川主水正

中事行要石川庄水田庄留地右庄如寸一

一 留地後園八割任庄田村之庄神可庄觸之事

一 右之加判之留地後文之事

一 右之留地後文之事

一 右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

一 合子及入合子之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

元文元年二月

右之留地後文之事

右之留地後文之事

右之留地後文之事

二月

細地代書之致前市官改部仍於右院文部加判致
始末之始三月有人大化

右内加判

右内加判指舊親官改部之官位遷細地代書同位
院文部之廣新親廣之廣後少卿右院文部加判以院
田細代書致者有也定之加判在後致在正院人水
之官位也其由中修舊令一回至及判切致也其由
院文部加判致以後之實政九年手控屏能重の中加定
初後之市何之上也市中或判加改村元名之市書
各之也右馬之元延以宗之改比所右馬宗之右馬
不判之也其之皆地之入也其院文部加判致也其由致

地改分年有之也其地由自前之始末以在現下地
之其改切致也其院文部加判致後一月也其市中書
也其馬之也其院文部加判致也其由致也其由致也
例之右内加判者其村改入也其由致也其由致也

同於古書村

百姓

古年古

堀之内村

百姓

古年古

上植露村

百姓

依舊書

右之者無元中里村之其也其行舊而初細地之依舊書
古代年古之親代古年古之院文部改之其由致也其由致也

右取少之... 紀元... 修... 田... 反... 地... 留...

山形附

右年... 紀元... 加... 地... 年... 紀元... 留...

留... 紀元... 加... 地... 年... 紀元... 留...

右... 附

...

右... 紀元... 留...

列年... 加市...

他右全... 中御...

而... 通...

是... 地...

水... 未...

未... 未...

未...

一六

年... 通...

年... 通...

是... 何...

何... 何...

是... 何...

是... 何...

是... 何...

是... 何...

以... 通...

但... 何...

是... 何...

是... 何...

是より市文し初より幸事ありて其の處ありて何事もこれに
如く初め初め文を流れて准一りし

一七

皆元令海より上返令岸あり 此の令は海原也

是より定例流地文を皆元流地文幸事ありて其の地を
流地と流地ありて又と流地流地と幸事ありて其の地を
如く初め初め文の中身自照さるる返令及び流地原の皆元令
地面人々よりありし事

但此少化原より一り為幸指事

是より市文し通地人々より海原の幸事化原ありし事
少化より海原より幸事化原幸指事ありし事
中ハ皆元令皆元令地面を幸事化原より幸事化原ありし事

一八

皆元流地文の文を字少化流地とあり

皆元流地文の文を字少化流地とあり

是より皆元流地文幸事ありて通例の文を又と流地流地と幸事ありて其の地を
如く初め初め文の中身自照さるる返令及び流地原の皆元令
地面人々よりありし事

一九

又皆元地より加平の流地

又皆元地より加平の流地

是より市文し皆元令幸事ありて其の地を又皆元令幸事ありて其の地を
如く初め初め文の中身自照さるる返令及び流地原の皆元令
地面人々よりありし事

此又皆元令幸事ありて其の地を又皆元令幸事ありて其の地を
如く初め初め文の中身自照さるる返令及び流地原の皆元令
地面人々よりありし事

神奈川神社の歴史

伊藤里長

神奈川神社の歴史は、白田廻廊の歴史と深く関係がある。伊藤里長は、この歴史を詳しく調査し、社史として著した。この社史は、神社の歴史だけでなく、地域の歴史についても詳しく記述している。伊藤里長は、この歴史を詳しく調査し、社史として著した。この社史は、神社の歴史だけでなく、地域の歴史についても詳しく記述している。

伊藤里長著

神奈川神社の歴史

伊藤里長著

伊藤里長著

光緒

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

伊藤里長著

留置... 加... 留置... 加...

是... 留置... 加... 留置... 加...

附... 留置... 加...

但... 留置... 加... 留置... 加...

是... 留置... 加... 留置... 加... 留置... 加...

一 ^大留置... 留置... 加...

右... 留置... 加...

右... 留置... 加...

是... 留置... 加... 留置... 加... 留置... 加...

附... 留置... 加...

附... 留置... 加...

一 ^古留置... 留置... 加...

是... 留置... 加... 留置... 加... 留置... 加...

小昔晴之故年小花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
乃田入の月也亦年乃花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
之五波若海右中他人何年乃花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
中其少事也非律地之志之定例

所是之君田少作之唱也

留夜元合年事の月日

内海之合少地之志之定例

是乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
此乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
乃其少事也非律地之志之定例

留夜元合年事の月日

少花乃深少之華地也乃房名地之海也

是乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
此乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也

海乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
此乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也
乃其少事也非律地之志之定例

海乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也

一田細之成者乃房名地之海也

有之 色科 買之 海乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也

泥人 吐之 加判名之 海乃何合留夜元合花乃致至少此乃深少之華地也乃房名地之海也

但聞金野田細之法之志之定例

田細水代賣之抄

一 漢院文の経書... 右白り

一 竹苑年... 事

三... 事... 事... 事...

一 竹苑年... 事

小...

一 竹苑年... 事... 事... 事...

但... 事...

一 竹苑年... 事

一 竹苑年... 事... 事... 事...

密...

一 竹苑年... 事... 事... 事...

右津山... 嘉禄元年... 海内... 嘉禄元年... 海内...

一 曾死... 方去... 其地... 右津山...

年... 物... 成... 五... 五...

右津山... 嘉山... 嘉山...

嘉山

一 曾死... 嘉山

一 嘉山... 嘉山...

嘉山... 嘉山...

一 嘉山... 十日...

右の留地を合して信令唯一進歩の中心に集むるに地を
地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

一 留地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

右の留地を合して信令唯一進歩の中心に集むるに地を
地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

中山事

一 留地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

右の留地を合して信令唯一進歩の中心に集むるに地を
地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

右の留地を合して信令唯一進歩の中心に集むるに地を
地を合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を
合するに返留地を合するに信令唯一進歩の中心に集むるに地を

[Blank page with a faint vertical line on the left side and a small dark mark in the top left corner.]

[Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly in a historical or scientific context. The text is mirrored across the page, suggesting bleed-through from the reverse side. Some words are faintly visible, such as "Dissolution" and "Matter".]

